

みんなで広げよう 『食のまちづくり』の輪

『食のまちづくり宣言』から10年目を迎えます

● 問合先 男女協働・まちづくり課まちづくり推進係

(☎232115)



【写真】昨年、博多阪急デパートで行われた伊万里牛のPRと販売活動

市では、伊万里ブランドで名高い伊万里牛や伊万里梨をはじめ、ブドウ、キュウリ、小ネギ、梅、アスパラガス、クルマエビなどの新鮮で安全な農林水産物の生産が営まれ、さらに、鍋島藩窯や古伊万里の積み出し港としての歴史を引き継ぎ、料理を盛る素晴らしい器があります。

これらを背景に、市では、平成17年2月、食を通して自らのまちの良さを見直し、再確認し、伊万里に住んでいることを誇りに思えるようなまちづくりをめざし、『伊万里市食のまちづくり宣言』を行いました。また、『伊万里市食のまちづくり推進条例』を制定するとともに、『食のまちづくり・食育推進基本計画』を策定し、市民や事業者との協働により、事業に取り組んでいます。

今回の特集では、市食のまちづくり推進委員会副委員長の土本寿枝さんが、市民リポーターとして、さまざまな取り組みをリポートしながら、食のまちづくりをさらに充実させるために必要だと感じたことなどを紹介していきます。

皆さんも、食のまちづくりを広げていくためには何が必要か、土本さんと一緒に考えてみましょう。



市民リポーター

つちもと ひさえ
土本 寿枝 さん
(東山代町)

▷プロフィール
地域の小学校のPTAとして子どもたちの食育を、市食のまちづくり推進委員会の副委員長として地産地消や食育の推進に関する活動を行っています。



二里町炭山地区で行われた地元産の米粉を使った団子づくり教室

1

食・まちレポート ▶ 宣言・計画編

『食のまちづくり』とは どんなものですか また、めざすものは何ですか



皆さんは『食のまちづくり』と聞いて何を考えますか。

食のまちづくりとは、どのようなものか、市担当課の中島副課長に伺いました。

『食』を通して『活力あるまち』に

食のまちづくりとは、『食』を基調としたさまざまな取り組みを通して活力あるまちをめざすもので、今年、『伊万里市食のまちづくり宣言』から10年目を迎えるとのこと。

宣言では、『伊万里の自然を生かした食材や特産品、器、文化、伝統、交流、食育など』『食』を通して心豊かで良質な人間関係、健康、地域産業や農業の振興、さらに伊万里の発展に努める』とあります。

さらに、平成25年に策定された『伊万里市食のまちづくり・食育推進基本計画』について、その概要や、めざすところについて聞きました。

『食』を通して『地産地消や農林水産業の振興、観光、交流、食育、健康づくり』のまちづくり

計画によると、『市および市民ならびに事業所の協働による食のまちづくりの推進』との基本理念のもと、①食のまちづくり宣言の普及・啓発、②農林水産業の振興および地産地消の推進、③観光および交流の促進、④食育および健康づくりの推進の4項目からなる施策の方向ごとに具体的な取り組み項目を掲げて各種団体などが連携して事業に取り組んでいるそうです。私がふだん意識しているのは、地産地消や食育、健康づくりなどですが、計画では、多面的な施策などが示されていて、改めて『食のまちづくり』の幅広さや視点の多さに驚きました。

市民や関係機関・団体、市が連携して取り組んでいます

『活力』、『健康』、『農・産業の振興』、『行きたいまち・住みたいまち・住み続けたいまち』をめざします



食

朝ごはん食べていますか 『朝ごはん』について考えてみましょう



望ましい食習慣を身に付けるために、保育園、幼稚園、学校では、PTAなどと連携して「早寝・早起き・朝ごはん」運動に取り組んでいます。私が活動している学校では、このことが出来た子どもたちは、『学校が楽しい』、『忘れ物をしない』など、さまざまな項目でとても良い結果が出ています。では、大人はどうでしょうか。市に尋ねたところ、20～30歳代で朝ごはんを食べていない人が多いそうです。勤務体制の影響でしょうか。朝ごはんの効果としては、『脳の働きを活発にする』、『体温が上昇し代謝が高まる』、『太りにくい体をつくる』などと言われています。不規則な食習慣は、生活習慣病の原因にもなります。まずは、早寝早起きの生活リズムをしっかりとつくり、大人も子どもも朝ごはんを食べて、元気に1日をスタートできたらいいですね。



私の中から注目したのは、施策の方向『③観光および交流の促進』です。今年度、西九州自動車道谷口インター（仮称）が開通することを見据え、福岡都市圏をターゲットに伊万里産農産物の消費拡大や伊万里ブランドの販売促進、それに併せて観光客の誘客を進めています。具体的に、福岡都市圏の人たちへ向けた取り組みにはどのようなものがあるのでしょうか。詳しくは、次のページで紹介していきます。



↑大きな期待も乗せて福岡と伊万里間を走るラッピングバス（昨年10月末から運行中）

2

食・まちリポート ▶ 観光・交流編

観光や交流に関する取り組みを 聞きました



食に関する『観光および交流』の活動について伺いました。

まず、食と器の連携の源の地である大川内山での取り組みについて、『鍋島焼窯元おかみ会』会員さんと、『伊万里鍋島焼協同組合』の原貴信さんに聞きました。次に、福岡都市圏で展開している伊万里産の食材を中心とした料理を伊万里焼の器で提供する『伊万里フェア』などの様子を紹介します。

伊万里鍋島焼を多くの人に

主本 『鍋島焼窯元おかみ会』とは、どんな会ですか。

おかみ会 大川内山や伊万里鍋島焼の素晴らしさを多くの人に知ってもらうために活動しようとして、平成22年1月に10軒の窯元の女性11人で設立しました。

常におもてなしの心で活動

主本 具体的にどのような活動をしているのですか。

おかみ会 主に、鍋島焼会館で限定販売を行う際のおもてなしや、伊万里伝統産業会館でのテーブルコーディネートを行っています。

主本 『食』に関してどのようなことを意識していますか。



前田家住宅で行ったおかみ会によるテーブルコーディネート

食と器の連携



↑春の窯元市で大人気の『陶板弁当』

おかみ会 テーブルコーディネートの際、テーマに沿ったメニューや食材を考えて紹介しています。

主本 活動をしていて良かったことは何ですか。

おかみ会 窯元間の連携が深まり、活動範囲が広がったことですね。

器と料理を生かしたい

主本 今後、どのような活動をしていきたいですか。

おかみ会 常に器と料理が引き立つ組み合わせを考えながら、皆さんと一緒に活動を続けていきたいと思っています。

主本 市内でも、伊万里焼の器を使って料理を提供するお店がもつと増えればいいですね。ところで、今月1日から始まった春の窯

元市で、『陶板弁当』がとても人気があると聞きました。が、**原** 『陶板弁当』は、春の窯元市の企画として、30の窯元が手書きで制作した陶板を蓋にして、中身を市内の仕出し屋さんにお願したもので、今回で10回目を迎えます。昨年は、100個の抽選販売に、7倍の申し込みがありました。

主本 すばらしい『食と器のコラボ』ですね。

西九州自動車道の延伸で

福岡からの誘客を図る

『伊万里フェア』が、福岡のレストラン・ヴァンテアン（百道浜のホテル）で、平成25年度は3回開催されました。

福岡のお客さまに、伊万里焼の器で伊万里牛や美味しい旬な伊万里の食材を使った料理を堪能してもらい、また、伊万里焼の器や農産物の販売など、のコーナーも設けられ、大変好評だったそうです。

このほか、福岡都市圏の人たちに伊万里を知ってもらうため、『都市農村交流バスツアー』が開催されました。

生産者と消費者の交流

伊万里の自然や文化、農産物の魅力を知ってほしい

昨年8月22日、博多駅出発で、レストラン・ヴァンテアン総料理長の金目シェフと伊万里を巡り、アスパラガスの収穫や梨狩り体験、金目シェフによる料理教室がありました。また、『伊万里おもてなしの会』による夏野菜を使った料理での昼食交流会や、大川内山で伊万里焼の窯元を見学するなど、伊万里をたっぷり満喫されたようです。



↑福岡のレストラン・ヴァンテアンで、伊万里の器に盛りつけられた伊万里の食材で作った料理



おもてなしの会による昼食交流会



ふるさと先生と作った料理を囲んでニコリ記念撮影

3

食・まちレポート ▶ 食育編

『ふるさと先生』の活動を 聞きました



続いて、良い食習慣を育むための『食育』活動が、地域や学校などのほ

か、各種団体で取り組まれています(下段参照)。ここでは、その中から、食と農の絆の大切さを伝える『ふるさと先生』の活動などについて、女性グループ研究会の善育洋子さんにインタビューをしました。

インタビュー



伊万里・西松浦農山漁村女性グループ研究会 善育 洋子 さん (木須町)

食と農の大切さを伝えたい

土本 「ふるさと先生」とは、どのようなものですか。

善育 県が行っている制度で、生産者が先生として小学校などへ出向き、農業の話や農業体験、自作の農産物を使った料理講習などを通じて『食と農』の大切さを伝えるものです。私は、大豆を作っていて、豆腐やおからサラダなどを、小学校の児童たちと一緒に作りました。

土本 はじめたきっかけは何ですか。

善育 自分が作った農産物を、



命ある食材として、大切にしておく、楽しく食べてもらいたいと思ったからです。

土本 私が行うPTAの活動は限られているので、子どもたちに野菜にも命があるというのを、今後ぜひ伝えていってほしいですね。

善育 はい。楽しく調理や体験を通して伝えていくのが私たちの役目だと思っています。

土本 やっていて良かったと思うことは何ですか。

善育 子どもたちや消費者との交流が生まれ、生の声が聞けることです。

自分が楽しんでやること

土本 活動する中で気をつけていることはありますか。

善育 楽しくやることです。学習も調理も楽しんでやることで子どもたちの身に付くと思います。常に、楽しめる工夫をしながら活動しています。

土本 そうですね。私もPTA活動は、楽しくやるようにしています。では、食育と関連しますが、この活動は今後どのようなことが必要になっ

ていくと思いますか。

善育 幼児期からの食育はもちろんです。小学校で終わるのではなく、中学校、高校へと継続して行っていく仕組みづくりが重要だと思います。

農産物の価値を広めたい

土本 今後の目標を聞かせてください。

善育 生産者相互や消費者との交流、親子で学ぶ機会をもっと増やしたいですね。豊富な伊万里の食材や、農産物の価値も広めていければと思います。

子どものための食育活動を紹介します

- 伊万里市食生活改善推進協議会 13地区の公民館で親子食育教室を開催しています。
- JA伊万里 支所別単位で女性部中心に地域の子供たちに農業体験(種まき、定植、収穫、料理作り)を通じて食育活動を推進しています。
- さが“食と農”絆づくりプロジェクト 保育園、幼稚園、学校等への『ふるさと先生』の派遣による農業体験活動などの取り組みを支援しています。

レポートを終えて

みんなが食の大切さを理解し実践すること

今回のレポートを通じ、伊万里の『食』を生かした『食と器のコラボ』や『福岡都市圏との交流』、『食育活動』などの取り組みを知り、『食』は、伊万里市の発展にとって重要なものと改めて強く感じました。一人ひとりが、日ごろから『食』を意識して行動することで、市民が元気になり、そのことがまちづくりにつながっていくと思います。例えば、おいしい伊万里のグルメや郷土料理を紹介したり、『早寝・早起き・朝ごはん』や地産地消を実践したりするなど、みんなが『食』の大切さを理解し、できることから始め、続けていくことで、『食のまちづくり』の輪は広がっていきます。

今年度は、『食のまちづくり宣言』から10年目を迎えます。伊万里駅の連絡橋に『食のまちづくり宣言の都市伊万里』の横断幕が設置してありますが、気付いていますか。皆さん、『食』を意識して行動することから始めてみませんか。



市民リポーター

土本 寿枝 さん